

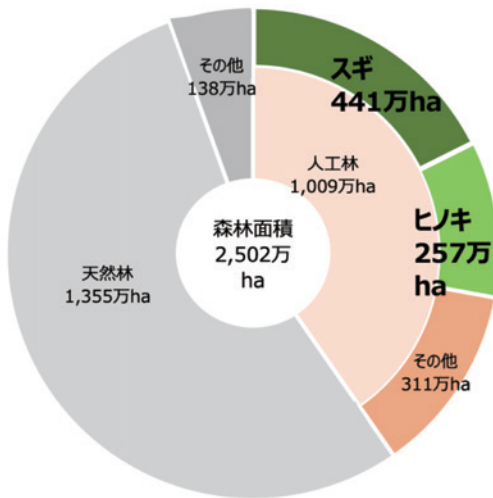
花粉の少ない森林づくりに向けて

— 林野庁による花粉発生源対策の取組 —

花粉発生源対策の趣旨

スギは、成長が早く、加工しやすいため、古くから各地で植えられ、建築材や家具材などとして幅広く利用されてきました。戦後は、荒廃した国土の復旧や、高度経済成長期の旺盛な木材需要に応えるため、スギを中心とする人工林の植林が進められ、我が国の人工林は約1千万haまで達しました。このうち、スギの人工林は、全人工林の約4割を占めており、現在では、その半分以上が50年生以上の利用期を迎えています。

スギは、20年生程度以降から花粉を飛散させることから、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用を進めていくためにも、花粉発生源となるスギ人工林を花粉の少ない森林に植え替えていく必要があります。



資料：林野庁「森林資源の現状」（令和4年3月31日現在）
 ※「人工林、天然林、その他」のうち、「その他」とは竹林と無立木地の合計。



花粉症対策の全体像

政府全体として、花粉症対策の取組を進めるため、令和5年4月に「花粉症に関する関係閣僚会議」が設置されました。同5月に開催された第2回の会議では、「発生源対策」、「飛散対策」、「発症・曝露対策」を三本柱とする「花粉症対策の全体像」がとりまとめられました。

同全体像では、「発生源対策」としては、10年後には花粉発生源となるスギ人工林を現状から約2割減少させ、将来的（約30年後）には半減を目指すこととして、スギ人工林の伐採・植替え等の加速化、スギ材需要の拡大、花粉の少ない苗木の生産拡大などに取り組むこととされました。

また、「飛散対策」としては、スギ花粉飛散量の予測、スギ花粉の飛散防止、「発症・曝露対策」としては、花粉症の治療、花粉症対策製品の普及、予防行動の周知などに取り組むこととされました。

発生源対策

10年後には花粉発生源の**スギ人工林を約2割減少**させることを目指す。スギ人工林由来の花粉が約2割減少すれば、花粉量の多かった今シーズンであっても平年並みの水準まで花粉量を減少させる効果が期待できる。また、**将来的（約30年後）**には**花粉発生量の半減**を目指す。

● スギ人工林の伐採・植替え等の加速化

スギ人工林の伐採を約5万ha/年→（10年後）約7万ha/年まで増加させるとともに、花粉の少ない苗木や他樹種による植替え等を推進

- ▶ 花粉発生源となる**スギ人工林の減少スピードを約2倍**に
（花粉発生源スギ人工林減少推進計画（略称：スギ伐採加速化計画））

● スギ材需要の拡大 林野庁 国土交通省

住宅分野でのスギ材製品への転換促進、木材活用大型建築の新築着工面積の倍増等

- － スギ製材・合板・集成材等のJAS材の増産に向けた**加工流通施設の国内整備**の支援、国産材の利用割合の低い横架材等について**輸入材を代替可能な製品を製造する技術**の普及等、安定供給体制の構築
- － **JAS規格・建築基準**の合理化
- － **国産材を活用した住宅に係る表示**の仕組みの構築（花粉症対策への貢献度を明示）
- － 建築物に係る**ライフサイクルカーボン**の評価方法の構築（3年を目標）
- － **住宅生産者による花粉症対策の取組の見える化** 等
⇒ 需要を1,240万㎡→（10年後）**1,710万㎡（470万㎡増）**に拡大

● 花粉の少ない苗木の生産拡大 林野庁

－ 国・自治体等における苗木生産体制の短期的かつ集中的な整備

- ▶ 10年後には花粉の少ないスギ苗木の生産割合を**スギ苗木全体の9割以上**に引上げ

● 林業の生産性向上及び労働力の確保 林野庁

労働力の大幅な減少が見込まれる中、

- － 高性能林業機械の導入支援等により**生産性を向上**
- － 外国人材の受入れ拡大、新規就業者の確保・育成、処遇の改善、農業など他産業との連携、地域おこし協力隊との連携等により、労働力の減少に歯止めをかけ、**10年後も現在と同程度の林業人材を確保**

「初期集中対応パッケージ」と令和5年度補正予算

昨年10月に開催された第3回の会議では、「花粉症対策の全体像」に基づき、初期の段階から集中的に実施すべき対応として、「花粉症初期集中対応パッケージ」が取りまとめられました。

同パッケージでは、本年度中に「スギ人工林伐採重点区域」を設定して、スギ人工林の伐採・植替え等を加速するとともに、スギ材の住宅分野等での需要拡大、花粉の少ない苗木の生産拡大などの取組を総合的に進めることとされました。

同パッケージを受けて、令和5年度補正予算では、スギ人工林の伐採・植替え等を加速化するため、「スギ人工林伐採重点区域」を対象に、

- ① 「花粉の少ない森林への転換促進事業」として、森林経営計画の未策定森林におけるスギ人工林の伐採・植替えに植替促進費（最大35万円/ha）を交付するとともに、林業経営体による森林所有者への伐採・植替えの働きかけに植替活動金（12万円/ha）を交付
- ② 「林相転換特別対策（特定スギ人工林）」として、スギ人工林における伐採から造林までの一貫作業に対する支援

などの事業を行うこととしました。なお、「スギ人工林伐採重点区域」は、全国のスギ人工林の約2割が該当するように、都道府県が、① 県庁所在地等から50km圏内にあるまとまったスギ人工林や、② スギ人工林の分布状況や気象条件等から、スギ花粉を大量に飛散させるおそれがあると都道府県が特に認める森林を設定することとしています。



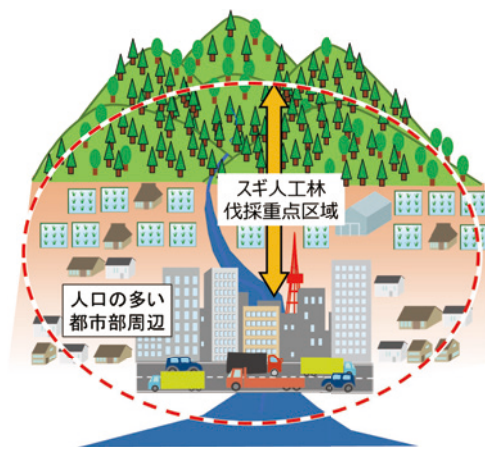
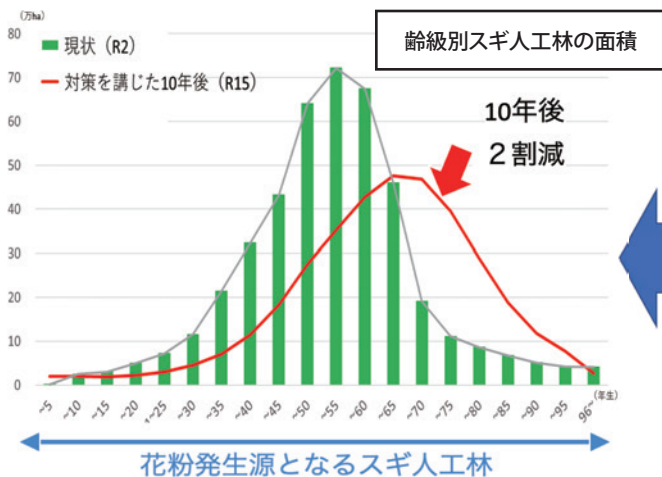
「花粉症初期集中対応パッケージ」における林野庁の取組

1. 発生源対策

10年後に花粉発生源のスギ人工林を約2割減少させることを目指す。これにより、花粉が多いシーズンでも、平年並みの水準まで減少させる効果が期待。将来的（約30年後）には花粉発生源の半減を目指す。

（1）スギ人工林の伐採・植替え等の加速化

- ・ 本年度中に「スギ人工林伐採重点区域」を設定
- ・ 伐採・植替えの一貫作業と路網整備の推進
- ・ 意欲ある林業経営体への森林の集約化の促進



花粉飛散防止剤の開発

これまで、林野庁では、スギ花粉の飛散を防止する薬剤として、「シドウィア菌」と「パルカット」の開発を支援してきました。

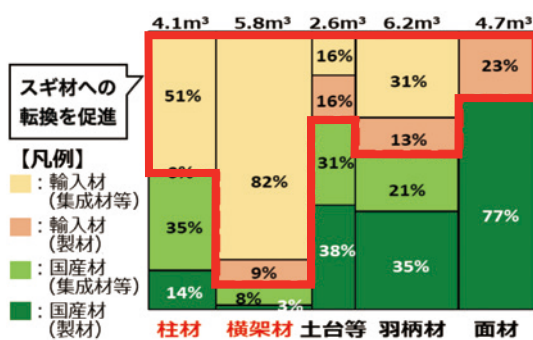
「シドウィア菌」は、スギの雄花だけに感染して、雄花を枯死させる菌類です。これまで、(国研)森林研究・整備機構が、シドウィア菌を人為的に散布して、雄花を枯死させる技術を開発してきました。

「パルカット」は、食品添加物のトリオレイン酸ソルビタンを基に製造される薬剤で、秋期にスギに散布すると、雄花の細胞が衰えるホルモンが分泌され、翌春の花粉量を低減させます。これまで、東京農業大学が、パルカットの実用化に向けた開発を進めてきており、既に、地上散布については、農薬登録が行われています。

両剤とも、実用化に向けては、効果的・効率的な散布技術の開発や薬剤の改良など、多くの課題があります。林野庁では、「飛散対策」の一環として、令和5年度補正予算により、花粉飛散防止剤の実証試験や環境影響調査の実施を支援することとしています。

(2) スギ材需要の拡大

- 住宅分野における輸入材からスギ材への転換促進
- 集材材工場、保管施設等の整備支援
- 建築物へのスギ材利用の機運の醸成



(3) 花粉の少ない苗木の生産拡大

- 森林研究・整備機構における原種増産施設の整備支援
- 都道府県における採種園・採種園の整備支援
- 民間事業者によるコンテナ苗増産施設の整備支援
- スギの未熟種子から苗木を増産する技術開発支援



コンテナ苗生産施設



高性能林業機械

(4) 林業の生産性向上及び労働力の確保

- 意欲ある木材加工業者等に対する高性能林業機械の導入支援
- 農業・建設業等の他産業、他地域、地域おこし協力隊との連携の推進
- 外国人材の受入れ拡大

2. 飛散対策

(1) スギ花粉飛散量の予測

- スギ雄花花芽調査の民間提供情報の詳細化
- 航空レーザー計測による森林資源情報の高度化及びデータの公開を推進

(2) スギ花粉の飛散防止

- 森林現場でスギ花粉の飛散防止剤の実証試験・環境影響調査を実施



飛散防止剤により枯死した雄花

「花粉削減対策シンポジウム2023」の開催

林野庁では、補助事業により、花粉発生源対策に関する最新の取組を紹介する一般向けシンポジウムの開催を支援しています。今年度は、(一社)全国林業改良普及協会の主催により、12月に埼玉県で、「花粉症削減対策シンポジウム」が開催され、約100名の方に参加いただきました。

シンポジウムでは、林野庁から「花粉症対策の全体像」や「初期集中対応パッケージ」に基づく取組を紹介した上で、埼玉県から、スギ材利用を通じ

た花粉発生源対策の取組、(国研)林木育種センターから、花粉の少ない品種開発の取組について発表が行われました。また、花粉量予測のための雄花

量調査の結果、花粉と気候の関係、花粉症の治療法などについても講演が行われました。さらに、会場では、花粉の少ないスギ苗木や空気清浄機やマスクなどの花粉対策製品の展示、埼玉県産材によるスギ製品の販売も行われました。

このほか、令和5年度は、4府県で林業関係者を対象とする「花粉発生源対策普及イベント」を開催して、花粉発生源対策に関する情報提供を行いました。

花粉症ゼロを目指す スギ・ヒノキ花粉削減対策 シンポジウム 2023

どなたでもご参加いただけます
入場無料
100名募集
事前申込制

開催日
2023.12.16(土)

開会/閉会
14:00~16:45
開場・受付開始 13:15

会場
TOIRO
さいたまスーパーアリーナ 4F
〒330-0081 埼玉県さいたま市中央区新都心8
048-600-3050

アクセス
JR京浜東北線・宇都宮線・高崎線
「さいたま新都心」駅下車 徒歩3分

お問い合わせ・お申し込み先
**全国林業改良普及協会
シンポジウム事務局**
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30
サウスヒル永田町
TEL:03-3500-5031
FAX:03-3500-5038

お申し込み方法(受付12月15日まで)
インターネット
下記のURLまたは2次元コードからお申し込みください。
https://www.ringyou.or.jp/hukyu/detail_1863.html

FAX・郵送
次の項目を明記して事務局へお申し込み下さい
①氏名・フリガナ ②性別 ③年齢 ④職業 ⑤電話番号
⑥花粉症の有無

主催：一般社団法人 全国林業改良普及協会
後援：林野庁、埼玉県

プログラム

- ①挨拶 (主催者、林野庁)
- ②各種講演
国・県の対策
- ③花粉症と花粉の少ない森林づくり
林野庁 森林利用課 花粉発生源対策係長 松林 玄悟氏
- ④花粉の少ない品種の開発
(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 育種部長 高橋 誠氏
- ⑤埼玉県における花粉発生源対策
埼玉県産材課 森づくり課 課長 高橋 恵理氏

翌年の予測

- ④花粉量予測のための雄花量調査
千葉県森林総合研究所 森林研究所 主任上席研究員 福島 成樹氏
- ⑤気象と花粉
気象庁森林研究所主任研究員、気象予報士 村山 貴司氏

個人向けの対策

- ④花粉症の予防と治療
名古屋大学大学院 森林環境学 教授 鈴木 元彦氏

●●●花粉対策製品の展示もあります●●●

スギ・ヒノキ花粉削減対策シンポジウム2023のチラシ

今春のスギ花粉飛散の見込みについて

毎年春におけるスギ花粉の飛散量は、前年秋時点におけるスギ雄花の着花量(花粉生産量)に大きく依存します。



講演会等



花粉症対策製品の展示等

スギ雄花の生育は、前年夏(6月~8月、特に花芽が分化する6月)の気象条件に大きな影響を受け、夏の日照時間が長く気温が高い場合には、スギ雄花の着花量が多くなり、翌年春の花粉飛散量も多くなります。また、花粉飛散量が多い年の翌年はスギ雄花の着花量が減少するという傾向が見られます。

昨年11月から12月にかけて、環境省と林野庁がスギ雄花芽調査を実施した結果、今年度のスギ雄花の着花量は、地域により大きなばらつきはありますが、全国的な傾向としては、過去10年平均値と比べると、同程度か、やや少なくなっています。また、前年同時期と比較しても、一部を除いて、多くの都府県で少なくなっています。

おわりに

スギ花粉症の有病率は、既に人口の4割以上に達しており、森林・林業関係者には、花粉飛散量の削減に向けて、花粉の少ない森林づくりを進めることが期待されています。

林野庁では、これから、「花粉症対策の全体像」に基づく花粉発生源対策の取組を進めてまいりますので、関係者の皆様にも、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。